

第2回鎌倉版「スマートシティ」市民対話（2021.10.10 14:00~16:30）

プレゼンテーション・問いに対する主なキーワード

※カッコ内の数字は関連チャットコメント数

※チャットのコメントは、原文の趣旨を損なわない範囲で一部修正

【問い】

スマートシティの具体的なプロジェクトを進めていくためには、どのようなステークホルダーや役割が必要だろうか？

<グループ1>

- ・ デジタル技術を知っている市民の技術者が大事。デジタルを教える場をつくれるようになるとうい。
- ・ 情報提供されたものが正しいのかを精査してくれる役割に、企業や大学がなれるとうい。

<グループ2>

- ・ 行政が市民に提案し、市民は賛同するか否かをフィードバックできるようになるとよい。
- ・ ただ、市民は忙しいこともあるため、ソーシャルワーカーを起点にするとよいのでは。

<グループ3>

- ・ 市民参加型を知らない人がまだまだいる。アプローチ手法を考える必要があり、若者であれば学校などの馴染みの場で市民参加できるようになると、入りやすくなる。
- ・ 市民団体などリーダーシップのある人が率先できるとよいのではないかな。

<グループ4>

- ・ 鎌倉市より紹介されたすで。にある取り組みをそもそも知らなかった。市の広報に課題があるのではないかな。
- ・ 防災のLINEアプリも、どこの誰からの情報かも伝えられるようになるとうい。若者であればSNS活用でスピードとリアリティを両立できる。防災チームができるとよさそう。

<グループ5>

- ・ 交通やインフラなどは市民レベルでは対応できる課題とは思えず躊躇しやすい
- ・ 自分でも解決できると思えるような、市民の抱える小さい課題も見える化されるとよい。

<グループ6>

- ・ 市民との合意形成のプラットフォームを構築する必要がある。現状は子供や高齢者、子育て世帯の親の声が拾いにくく、情報も届けにくいのが課題。
- ・ 海外事例など、外部からの視点も必要。

【まとめ】

市民

- ・ 行政案に対し、市民は賛同するか否かをフィードバックする。
- ・ デジタルに詳しい市民の技術者が教える役割を担えるとよい。
- ・ 市民団体などリーダーシップのある人が率先できるとよい。
- ・ 自分でも解決できると思えるような、市民の抱える小さい課題も見える化できるとよい。

行政

- ・ 行政が市民に（取組みを）提案する。
- ・ さまざまな情報を市民に広く届ける役割。防災情報であれば、どこの誰からの情報かも伝えられるようになるとよい。

企業

- ・ 情報提供されたものが正しいのかを精査してくれる役割。

大学

- ・ 情報提供されたものが正しいのかを精査してくれる役割。
- ・ 学校などで市民参加できるようになると若者も市民参加しやすくなる。
- ・ 海外事例など、外部からの視点も必要であり、研究者からの情報提供してもらえるとよい。

NPO

- ・ 市民の困りごとを知るソーシャルワーカーを起点にするとよい。